
マルティーン・ヴァルザー 『母の息子』

—— 憧憬の三部作 —— (その2)

洲 崎 惠 三

要約

Martin Walser 84歳の長編小説『母の息子』(2011)は「キリストのまねび」が背景にある現代の小説である。しかし処女懐胎、磔刑と復活というキリスト教の2元素が基本テーマとはいえない。幾組かの男女の織り成す愛の物語そのものがおもしろい。おもしろいのはそこに愛と信、生死、老若、自然、希望、美、言葉など、人間の生の根源的問題が縫いこまれているからであろう。会話や語りのなかにちりばめられた短い美しいアフォリズムもおもしろい。生の源泉から湧き出る箴言だからだ。Marcel Reich-Ranickiは、Thomas Mannの小説がなぜ今でもたえず読み継がれるのか、それは愛と性の物語という点で何よりもまずおもしろく、人を惹きつけるからだと評した。それは老いるほどに明るい音調のMartin Walserのこの小説にもあてはまる。

キーワード： 翼のない天使、母と子、自己放下、自然の声、曙光

序

1927年3月27日生まれのMartin Walserは、2010年(82歳)『わが彼岸』(*Mein Jenseits*)、2011年(84歳)『母の息子』(*Muttersohn*)、2012年(85歳)『第13章』(*Das dreizehnte Kapitel*)という小説を上梓した。Harvard大学招聘講演『義認についての試論』(*Über Rechtfertigung, ein Versuch*)を含め〈憧憬の三部作〉(*Trilogie der Sehnsucht*)といわれる。

『わが彼岸』として先行発表された短編小説は、『母の息子』の第3章に嵌めこまれて、5章からなる500ページの長編小説となった。

内容から見れば、Maria-Christusという母子像に似ていなくもないが、物語の核心は現代の老若男女の人間模様、その生と死、愛と性、信と不信の物語である。

形式からみれば、小説、詩、劇様式が融合する物語である。間接話法による会話と、体験話法が主体であり、さまざまな視点から人間の生のありようが描写される。Ⅱ、Ⅲ章は1人称、Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ章は3人称で語られる。

言語表現から見れば、核となる言葉ないし文が、細胞分裂のように、次なる表現を生み、脈絡ある意味を生み出すプロセス、いわば自立世界で遊ぶ数式演算に似た、言語表現の自己運動も随所に見られる。^①

主人公はPercy Anton von Schlugen(愛称Percy)。舞台は、Boden 湖北部 Oberschwaben の森に

囲まれた架空の Scherblingen 修道院州立精神病院 (Das Psychatorische Landeskrankenhaus=PLK) と、実在のスイス Rheinau 島修道院聖 Maria 教会である。

小説は次の5章から成る：

- I, 生きるために (Dem Leben zuliebe : 12節, 186ページ)
- II, この世の生 (Dieses Leben : 9 節, 89ページ)
- III, わが彼岸 (Mein Jenseits : 7 節, 78ページ)
- IV, 生きつづける (Fortleben : 19節, 146ページ)
- V, 最後の知らせ (Letzte Nachricht : 10ページ)

各章の男女関係と重要人物たち：

- I, Fini (母) と Arno Schwillk, Ewald Kainz / Chrysostomus Studer, Rauch
- II, Ewald Kainz と Elsa Frommknecht, Dr. Silvia Schall / Innozenz
- III, Augustin Feinlein と Eva Maria, Dr. Bruderhofer
- IV, Percy と Sandra / Modest Müller Sossima, Massimo Attanasio
- V, The Jollynecks, Austrian Action, German Insiders, Katze / Massimo

1.1 Percy と Studer 主任司祭

第1章は、目に見えない語り手が語る3人称の物語であるが、体験話法が読者を登場人物の内面深くまで引きずりこむ。

看護師 Percy が、患者 Ewald をその病室に訪ねるところから始まる。

母 Josephine (愛称 Fini) は Percy に、「あなたは翼のない天使」、「お前を産むのに男は必要ではなかった」「私は導かれているの」といつも言った。

ある年のクリスマス前夜、Percy は、吹雪のなかある車に投げ飛ばされて側溝に落ち、動けないで横たわっていたが、意識はあつてかぶっていた皮の帽子をストックで道の上にかざすことができた。そこへ幼稚園のクリスマスプレゼントから帰る途中の Studer 主任司祭がヘッドライトに照らし出されたストックの帽子を見つけ、救う。私を救ってくださった方はどなたですかという問いに名乗った司祭に、Percy は「おめでとうございます」と言う。おかしく思ったが、よく考えてくださいればその意味がわかるでしょうと言われた司祭は、クリスマスの夜に一人の命を救うことができたのだから感謝すべきだと、3人の王に祈った。Studer 司祭は Percy の命の恩人であり、終幕で弔辞を読むことになる。

5月、Maria の月、師でもある PLK 院長 Augustin Feinlein の懇諭と紹介により、Percy のスピーチ (説教に値しないと自分では思う) が病院で行われる。

愛するみなさん、生きるために (生を愛するために) と話しかける。

私の母の名は愛称 Fini。母の父 Josef は死の床に母だけを呼んで「おまえは導かれている、Fini、おまえはやつてのけられるよ」と言い遺した。それ以来母は「何かにとりつかれた女」となる。「私は愛する生のために生きているの」、それを Percy は母から学んだ。

敬愛する Studer 司祭は、その説教のなかで、新約聖書に「神の国」という語句が122回出ている

と言った。神の国、それを言うのはイエス自身である。しかし「神の国はだれの心のなかにもある」。Percy は美しい表現だと思う。そこには何かがある。何かわからないが、その表現は音楽のような響きをもつ。

私が口を開けば、自分のことについて話していることに気づく。私は自分が知っていることを言うことはできない。言うことができるのはただ、私のありよう（存在）だけである。自分自身について語ると、自分は他人に最も近くあるという希望。だれしも自分に最も近い。それなら自分自身について語る人はみなたがい近くあるだろう。私は山彦であるが、何の山彦かはわからない。独自ではなく、従属的であることを、自分の欠陥だとも思うが、欠陥には何か光を孕んでいるようにも感じられる。信頼に値する、ということは私には最上のこと。私の言っていることは信頼できると思っただけなら、私はけっしてひとりではない。孤独ではない。Percy のスピーチはオルガン合唱で終わる。

1.2 Percy と Augustin Feinlein

州立精神病院長 Prof. Dr. Dr. Augustin Feinlein は、Percy の師である。修道院看護学校でラテン語とオルガンを学んだ。

患者の治療方針について、20歳近く若く後釜を狙う Dr. Heinrich Bruderhofer と争っている。自然治療と薬剤処方、心のケアと科学的療法の対立である。

患者たちが好むことを好きにやらせる、悩める者があるがままにさせる、したいようにさせる、強制はしないことが、Augustin Feinlein の救済方針である。

前回詳述したように、この二人の新旧対立物語は、Eva Maria という恋人をめぐり、『わが彼岸』という短編小説として前年2010年に上梓され、本小説の第3章にはめこまれた。

患者になりうる者でなければ、患者を救うことはできない。Percy の寝袋療法も、師 Feinlein の自然療法に沿う。患者 Ewald Kainz をめぐり、師弟は話す。

問いかけに Ewald は沈黙したままなので、Percy は「Scherblingen の沈黙」にゆだねようと思う。作家 Innozenz の Scherblingen アンソロジー『竈台所』は、患者たちの手紙を編纂したものである。もう25巻になるが上梓してくれる出版社はない。しかし世界はひとつのテキストである。テキストは意味ある世界存在の可能性を示す。

母 Fini は Ewald Kainz 宛書いたが一度も投函しなかった恋文を Percy に話し手渡す。いつもトルコ玉、青緑色の目の Ewald と言うが、Percy の青い目とは違う。Percy の朝焼け色の髪の毛も Ewald にはない。だから Ewald が実父であるという証拠にならない。

院長はナポレオン法典にある「患者の詮索は禁止」と言う。Percy はパウロのコリント人への手紙から「もたないかのようにもつかわりに、もっているかのようにもたない」と言う。父親のことである。院長は自分が父、Percy が子なら、Innozenz は霊だと思っている。

院長は「君を養子にしたい。署名書類が用意してある」と言うと、Percy が青ざめたのを見て、ただ君が私の息子ならと思うだけですと応えて、相互に抱き合った。Percy はこのことを母に手紙で知らせたいと言った。

Percy のスピーチについて、聞いた人たちからそのテキストの要望があったが、Percy が話すことは、彼がそう話している瞬間においてのみ存在する、その瞬間に何も語りかけられたと思わない者には、それをのちにテキストで読んでも何も語りかけてこない、と答えたと言院長が言う。そして、また話してくださいと要望する。

Ewald Kainz には、二人の女性からいつも電話がかかってくる。聴取報告書類があるから読みなさい、という勧めに Percy は応ずる。

Ewald Kainz (1947年1月1日生まれ) は、心理セラピスト Dr. Silvia Schall の診察室に押し入り(鍵をもっていた)、コニャックの壺を飲んで、ガソリンを身に注ぎ、緑色の皮で覆われたカウチの上に寝そべり、火をつけた。しかしスプリンクラー装置が火を消したので、焼けなかった。検察はまず危害の恐れある放火という告訴を諦めた。Kainz は Scherblingen PLK の司法精神病棟に引き渡された。つまり自殺を試みたのだ。Percy は隔離病棟から出して寝袋療法を施したいと思う。

1.3 母 Fini, Arno Schwillk

Percy は Ewald に、母 Fini から聞いた話をし、母の手紙を読んで聞かせる。

母 Josephine は、1937年3月19日、Gellnau/Argental の生まれ、Schlugen 家の第5子。Percy は、母40歳、1977年生まれ。農夫の父は、母親の襟をつかむ子をありうる最大の優しさで抱く、巡礼先 Mühlheim は Welschenberg の Maria-Hilf 像の前で、「おまえは導かれているよ」と言った。

Fini は、Tettngang の洋裁マイステリン Bentele 夫人家に住込み洋裁を学ぶ。私は Argental のおろかな鷺鳥(女)と自称するが、近づく男性はみな Fini の前で震えだすので、それはわが魅力なのかもしれないと思う。包容力、受容力、献身の勇氣はある。Goethe の Iphigenie から Schiller, Rilke, Hesse の詩など読書の世界を知りだすと、母は読書に対するには結婚しないと、新聞に結婚広告を出す。それに答えたのが Hugo Schwillk, 34歳。Arno Schmidt の狂信的愛読家で、自分で言いたい、言えないことを、この詩人の文で表現したので、Fini は Hugo を Arno と呼んだ。現実には会う前の文通は、Arno にとっては酸素、Fini にとっては嵐だった。お互いの手紙に惚れこんで二人は結婚する。

1.4 Ewald Kainz

Percy が生まれる4年前、1973年1月11日 Stuttgart の新宮殿前で流星のような事件が起こる。高校見習教諭(Studienreferendar) Kainz との出会いである。彼は酷寒のなかで就業禁止法(Die Berufsverbote)に反対する熱いデモ演説をしていたが資料を取りだすなどに難渋しているのを見た Fini は40分もの間マイクをもってあげた。Arno は酒をあおって、やつは DDR に2度招待された DKP 党員で基本法忠誠に反するから就業禁止法に触れるのだ。おまえ、左の石榴のワギナめ! Arno は Fini を散々殴り、ある日夫の投げたアイロンを避けることができずに眉間に血の傷を受けたとき、勧められて、弁護士に訴え、署名して離婚した。強度のうつ病になり入院したが、Marquard 劇場の支配人の好意で衣装係りとなった。そのときのことを母はけっして話してくれない。1990年、Percy が12歳のとき、Arno は死去。それ以後母は恋文を書くことを止めた。母は、お

まえの父は Arno ではない、夫はもう必要はなくなった、と言った。

Fini の手紙抜粋：あなたへのどの手紙も最後と思って書いた。私は導かれている。上へ、さらに上へと。幸福に触れることに身を伸ばす。幸福でありたい、ただそれだけ。あなたがいないのは寂しい。あなたと寝たい。われわれのなかの抑圧された部分がはじめてわれわれを人間にする。ゆうべ彼は私に近寄った。一人の男と女の間にかかることのすべてが起こった。私は一生この夜により生きていけよう。妊娠を知った朝 2 時半、駅で手紙を書く。駅が好きだ。どの歩みも快い。狂うほどに。

沈黙の Ewald は母の手紙に、はじめて反応して驚き、立ち上がった。

1.5 寝袋療法, Grete Strauch

Percy は寝袋心理療法 (Schlafsackpsychotherapie) を Grete Strauch に施す。寝袋に横たわって、ふさわしいテキストの言葉を暗誦するほどにくり返して読み、対話し、水を飲み、心身解脱して、眠る、という自然療法である。Augustinus (354. 11. 13~430. 8. 28, Thagaste, Hippo) に始まり、ドイツ神秘主義者の一人 Heinrich Seuse (von Suso) (1295. 3. 21 ~1366. 1. 25, Überlingen ないし Konstanz 生まれ、すなわち Martin Walser と郷里圏を同じくする) や、Jakob Böhme (1575~1624. 11.17, Görlitz)、さらには Sweden の神智学者 Emanuel von Swedenborg (1688. 1. 29~1772. 3. 29, Stockholm) などの言葉である。

(1) 孤独な魂を襲う重い苦悩の末に、魂は恍惚となり、もはや何の欲求もなくなり、自己忘却、自己放下状態となる。そこに湧出する、静止する今の穏やかな感情に満ちた永遠の生の甘美さ、これを神の国と言わずして、どこに神の国があろう。Non sum (私は存在しない)。この無私の道を歩こうとする者はいない。だれしもすべてを棄却するより、10の業を引き受ける。存在し、大きく、富み、強くあろうとしてそれに身も心も賭ける。そこからあらゆる苦悩、われわれには神もなく恩恵もなく愛もないという嘆きが生ずる。われわれに欠如しているすべては、われわれがあろうと欲するところからのみ生ずる。ああ、無であることこそどこでも真の永遠の平和であろう、もし最も神聖な高貴なものがこの世にあるとすれば、自己自身をまったく放棄すること、自己放下、解脱。ああ子らよ、汝を無へと指し示そうとしている者を、愛と感謝で受け入れよ。すなわち汝は何であるか、non sum, 我は存在しない、無であると言われているのだ。われわれはみなこの無のなかに至り、神の今に沈潜することを、神よ、われわれに与えたまえ。(cf. 124f., H. Seuse)

(2) 中心は魂であり、光は神である。神は天にあり、天は人間の魂にある。内なる天が外なる天に火をつけるのだ。われわれが魂のなかに降り、そこに神を見出すために、神はわれわれの目から消えうせるのだ。神はあらゆる魂の命、あらゆる生き物の命である。神は私の魂の命なのだ。もし私が天使の舌をもち、天使の知性をもっているなら、それについて語りたいところだ。それを見うるのは精霊のみ、そして舌は立つことができない。なぜなら私はこの世の言葉しか語ることはできないからだ。(cf. 127f., J. Böhme)

ドイツ神秘主義思想には、東洋なかんずく日本人の、自然法爾(親鸞)、自己放下(道元)、則天去私(漱石)などに通ずるものがある。ここで注意すべきは、それが抑鬱せる魂の救済療法に結び

ついていることであろう。

なお、「薔薇はなぜなしに咲く」ように、自然の根底は、無底 (Ungrund) であるが、そこは欲求 (Sucht) を孕んだ始源でもある、という Jakob Böhme の神智学の神秘主義思想は、たとえば Schopenhauer や Nietzsche の世界の根底としての「生への意志」、あるいは Heidegger の「現存在の根拠は無根拠」にも通ずるが、Martin Walser の欠如こそ創造の母胎、言葉こそ無からの有化、という主張にもつらなるだろう。無の混沌の上にロゴスの光が生まれる。

(3) E. Swedenborg 『1744年の日記』は天界へ昇降する魂の夢日誌である。無限の天に昇ると、その中心点に愛の場所があり、すべては愛の重心を回っていた。思考は呼吸と同じで、意志による呼吸、自然による排気の交替であった。全能の神よ、あなたのものであって、私のものではない、恩寵をお願いします。それは私の業ではなく、すべては主の意志です。信仰は、思考や理解からはるかに高くあるように思います。そこで私は平和になります。神よ、あなたのなかで私をお守りください。けだし一切は神の業であるからです。何も私の業ではない、けだし私の最高の思考といえども、私を利するより壊すからです。だから、人がその悟性を信仰の問題に混ぜないことが、恩寵を受けるさいの最高のことなのです。われわれは子供のようでなければならない。なぜなら、悟性は信仰を害する。けだし、悟性は蓋然性にかかわるだけだが、信仰は、人間が受けとるのみの、神の贈与であるからです。(E. Swedenborg, 151ff.)

私は黙るばかりですと、Gretel は言う。これは沈黙者のためのテキストです、だからくり返し唱えること、一種のスポーツなのです、と Percy は言う。

1.6 Percy のスピーチ

新緑の生命の再来する 5 月 Percy はオルガンを弾いてスピーチする。修道院図書館広間の穹窿に描かれた天の雲を見上げ、翼のない天使であるが私も上へ飛翔したい。どこに行きたいのか。窓から日がさす光のなかへ。その最も明るいところに Maria がいる。天の女王。天上には愛し子を抱く Maria、地上には Golgatha。スコットランドの Duns Scotus は、Dignare me laudare te (あなたを賛美させ賜え) と祈った。Salve Regina, mater misericordiae (憐れみの天后, Maria)。あるとき 10 歳の女の子が尋ねた：どうして雲の上にあのように多くのものが描かれているの。雲を支えているのはだれ？ 天使だわ。天使はどこからあのような強い力を得るの？ からだのなかにある力はみな天使だという答え。私なら、描かれた天使はすべてができるのだと言いたい。そこには描かれた本棚もある。かつて修道院が廃止されたとき、何千冊という本も消えうせた。本棚、本の容器は空である。空の容器 (Cassette vergine)。Vergine とは処女、純潔、空という意味である。空にして清らかな処女よ、Dignare me laudare te! どういう名であろうと私はあなたを信じ、描かれた本を信じる。

「愛するみなさん。理解されているということを知ることはそもそも最も激しい体験のひとつです。母 Finiのおかげです。母が私のことを信じなければ、私はだれも信じることはできないでしょう。何事も信じられないでしょう。すなわちだれのことも理解しないでしょう。そして何事も理解しないでしょう。だれもあなたを信じないなら、あなたはだれも信じることはできないでしょう。

信じることができるのはただ、自分が信じられているということを体験する人だけです。それは欲して得られるものではありません。ではだれかがあなたを信じるとは、いったいどういうことなのでしょう。それは、あなたはあるがままであってよい、ということあなたに告げているのです。いつまでも、あるがままであってよい。そのことを私は母から教わりました。はじめから。私はあるがままであってよい。私がそれを口にすると、私はいまどういう気分であるかに気づきます。私はみなさんの前で不安は少しも感じません。みなさんもまたそれを感じておられますか、どの人も、われわれもみな？ われわれはいまあるようにあってよい、あることができる、あるがままにあることが許されている感じ。いま。この瞬間に。不安なく。みな。」(168, 訳)

話し終わると Percy はパイプオルガンで「茨の森を歩めるマリーア (*Maria durch ein Dornwald ging*)」を弾いた。7年間一葉の葉もつけなかった森も、愛し子を抱く Maria が通ると、茨はバラを咲かせた。Kyrie eleison (主よ、憐れみたまえ)。聴衆はみなそれに合唱した。

その夜、不安が戻ってきた。おまえには否定的なところが少なすぎる、いままで否定なしにやってこられた者はいない、否定の力なしにはおまえの言っていることはまともに受けとられないだろう。おまえは否定を学ばなければならない、という母 Fini の声が聞こえる。そうだ、私は否定することを否定する、と Percy は壁に向かって言う。

1.7 トークショー

テレヴィのトークショー司会者 Susi と記録映画監督 Fred と Percy の対話。

Susi: なぜ Percy と名づけられたのか? 1970年代愛唱された “When a man loves a woman.” のソウル・シンガー Percy Sledge に因んでか? P: そうだが私の愛唱歌ではない、私は看護学校でラテン語とオルガンを学び、18世紀教会音楽に親しんだ。 S: この番組の主題は、あなたのお母さんがあなたを産むのに男は必要ではなかった、と言っているとの由、あなたはそれを信じるか? P: 母がそう信じていることを、私は信じる。そう信じなければ、あちこちでしゃべることはないはずだ。 S: われわれもそう信じるべきか? P: 私を除いてだれもそれを信じる必要はない。母の言ったことはまったく不可能であるかのようにだれでも思っている。とにかく信用できないということだ。しかしそれは母と私の問題だ。他人がそれを信じたくない、あるいは信じることができないという理由で、われわれは信じることを許されないのだろうか? 信じること、それはひとつの能力、ひとつの才能である。どうやら割り切れる方程式だけで生きていける人もいるようだ。信じるとは、けっして割り切れない方程式である。信仰の高揚は、私の知るなかで最も明るい生の気分だ。いままで私はもちろん生の十全な充溢ということはまだ知らない。しかし信ずることのなかで私は私がだれであるかを知る。おそらく。だれしもただ自己自身の信仰をもつだけ(信仰は各自固有のもの)だ。信じること、それは魂の自筆の文字なのだ。(173 f.)

S: ナザレの方と競うつもりか? P: 競うとはどういう意味か? S: 素朴者を演じているのか? P: 素朴を演じるとはどういう意味か? S: あなたは寝袋セラピーや即興説教で有名だからです。

Fred: テレヴィはいつも準備した台本に従う。 Percy: われわれが一緒にいるこの今という生

の瞬間は、一度もなく、将来もけっしてない現在である。かつてどうあったか、いつかどうなるかではない。私が今あるように、あるがままにあることで、この一回性に対応したい。この瞬間の神聖化は、聖 Augustinus の『告白』(A. D. 399) から由来する。「私の告白の目的は、私が過去どうであったかではなく、現在どうであるかを語ることである。」Augustinus が回想を書いているその瞬間の自分のありようを、われわれに知ってもらうためののみ、彼は語っているのだ。だから回想ではなく告白なのであり、告白は過去でも未来でもなく、語られているその瞬間だけしか知らない。

2.1 Ewald Kainz, Elsa Frommknecht

第2章は、Ewald Kainz が1人称で語る自己物語である。母親は「あなたから現世の生を省いてあげよう」と思って誕生3日後枕で窒息させようとしたが、私は生きのび、18年間養護学校で育ち、指物師教育を受けた。未来は行き止まりだと思って2度自殺しようとしたがうまくいかなかった。夜間 Abitur に合格。Tübingen 大学卒業後、高校見習教諭となって生徒たちに愛されたが、就業禁止法により教師への道は当局により阻まれ、どもるようになり、自動車教習所教官、オートバイだけの教官となる。特技は安全トレーニングだった。

どもり矯正のため、新聞で知った有名なコーラス指揮者で言語矯正師の Elsa Frommknecht 夫人の治療所に行き、救われる。すぐに目と声のとりことなり、鴉の羽根を使った呼吸の練習をするうち、自分の呼吸は何の目的もなくただ彼女のためにあると思う。Elsa はすでにピアノ調律師兼販売人 Adalbert von Rauch こと Bertl と結婚、Sandra と Laura という娘がいた。父親の愛顧をめぐる嫉妬から、より力の強い妹は、姉を殴った。しかし Bertl の借金と女が原因で Elsa は離婚したところだった。惨めな DDR の子供時代、生きられなかった人生の Bertl は、堰きとめられた渴望をもち、借金をしてはとんずらした。Elsa の名による借金より悪いことは、ピアノ調律を頼む女性とみな寝たことだった。

Ewald と Elsa は結婚。姉 Sandra は14歳、妹 Laura は12歳。Elsa は Wangen と Ravensburg に合唱グループをもっていたが、Ewald もオートバイ学校生徒の10名からなるオートバイ・クラブ German Insiders, コーラス・グループ Frei-Chor を結成。自由合唱団の指揮者は名 Georg, 愛称 Giacomo, オートバイは Monster 1200。Ewald は、愛称 Marlon で、Naked Bike は Ducati だった。二人は育ちが似ているということで意気投合。Giacomo は Allgäu 山中の養蜂家で、「蜜蜂が死ねば、人類も死滅する」という Einstein の言を引用した。黒皮ジャンパー10名のメンバーにはそれぞれ愛称がつけられた。Petrus, Kondor, Katze, Ringo, Lenin, Castro, Silber, Apache, Basta。みな Ewald より2,30歳若い青少年だった。いわばこの10人の使徒のうち Katze (雌猫) がやがてユダ (Judah) となる。仲間を Elsa に紹介し、ロシア民謡風『12人の群盗伝説』を合唱する。深い森に12人の盗賊が住んでいた。頭は Kudejar。多くのキリスト信徒が略奪、殺戮された。しかしある夜良心が目覚めた頭は修道院へ入り、神と人々に仕えた。

2.2 Dr. Silvia Schall 夫人

結婚後9年目、墮罪が起こる。

1999年6月8日、Bayern-Badenwürttemberg州自動車クラブ主催の気球追跡オートバイ競争に参加。気球に乗る3人のうちの一人 Dr. Silvia Schall 夫人が賞状賞金を勝者に渡す。40歳前の美人。明るいページュ色の皮ジャンの金髪。自分の美しさを知っていて、自分はどうもできない、とでも言おうとしているかのような、挑戦的な微笑が口元から漏れている。気球は20分以上雲により見えなくなってしまう、飛行は200km以内、16時までに着地、着地後15分以内に、200m以上離れた地点から追いつく、というのが競技規則。気球を追っているのか Schall 夫人を追っているのか、結果は3位。1位は最人気のどの車についても本を書いて3,000万部に近い売り上げのある流行作家 Habernuss, 64歳。Schall 博士の7年来の愛人だった。Kainz 52歳。

Frau Dr. Silvia Schall。精神(心理)療法医。Überlingen の病院の診察室に行く。どもって意思疎通できなかったが、自分史を語り、どもりを救ってくれたのは Elsa だと話す。Silvia は心理療法と交換にオートバイの個人指導を望む。丘陵での実習のあと芳香ある干草のなかへ。

Elsa と Silvi のあいだに Kainz は苦しむ。Elsa はけっして捨てたくないし、捨てることはできない。理性審問委員会に実情を話せば、禁治産宣告がなされるだろう。不正の自覚。

Elsa との愛はことばの遊びではなかった。彼女のまなざし。彼女の目。目はすべてを言っている。何も言わない。目が美しく輝くことができること。彼女の目は生起していることを誇っている。(236)

Silvi は、話す才能、言葉の伴奏がある。Elsa は自然、Silvi は文明。

Elsa なしにはすべてが不幸だ。Silvi なしでも同じだ。

Elsa はすべてを知ってしまう。最悪。

Elsa は最も大切な人だ、と私は証明しようとした。だれも、どんな男も女も、彼女ほど大切な人はいない。ほかに言いようはない。大切という言葉に意味があるなら、ただ Elsa によってだけなのだ。(239)

私は Elsa なしには生きられない。Silvi とはお別れだ。Silvi は可能なすべてだ。しかし私には彼女は必要ない。Elsa と私はおたがいに頼りあっている。Elsa なしにはすべてが無だ。(240)

Elsa : 「あなたが私にけっして嘘はつかないことはわかっているが、しかし信じることはできない。いっしょに生きようと思うなら、あなたはそれをこらえなければならない、それ以外は何も望まないわ。」(240)

「私は嘘をつくことはできない。かならずしもそうとは限らなかったが。しかしこの男によって、嘘はどんな破滅力をもつかを知ったからこそ、嘘をつくことはできなくなったの。だまされた人は、どのようにだまされ、でっ上げられたことを信じ、本当と思ったかを知り、それを見抜いたとき、自分に対して言われることをもはやけっして信じることはできないだろう。信じる能力を破壊すること、これこそ嘘の力なのだ。しかし幸運なことに破滅させる言葉とは別のものがある。言われた言葉は信じられないとしても、あなたの動き、身振り、まなざし、呼吸はみな信じる。あなたが私を愛し、いかに愛しているかは、わかるわ。そこに何の愛もなければ、私は庭の草を愛する。」(241)

Elsa は Ravensburg の Chor Talentissimo の公演で Friedrich Händel のオラトリオ『Judas Maccabaeus (ユダ・マカベウス)』を指揮、かつ Bass の Simon を歌う。Elsa が歌うと、声は振動

する、空間が共振する、その声は勢い、力、高揚があった、私はこの声によって現在の私よりはるかに大きくなる。「おお自由よ、汝の最上の宝、歓びの源泉、愛撫に値するものよ (Oh Liberty, thou choicest treasure, source of pleasure, worth caressing)」, 私を溶解し、苦悩を消す甘美, Elsa よ、ヘンデルとともに、わたしはおまえに庇護を求めざるをえないことを知る。Elsaのところ以外に私の居場所はありません。Elsa を除けば何もありません。この感情ほど確実なものはない。「おいで、永遠にほほ笑む自由よ (Come, ever-smiling Liberty)」。ヘンデル！ 世界で最も美しい麻酔音楽。紀元前2世紀、シリアによりエルサレム宮殿を破壊され圧政下に苦しむユダヤ解放のため蜂起した Yudas Maccabaeus, その自由奪還の戦いを歌ったオラトリオ。自由は闘いとられねばならない。自由の音楽化であるこの聖譚曲を指揮、歌う Elsa ほど美しい人はいない。

Elsa の声は、快い自然の声、湧出する生命力があり、人を癒す。Elsa こそ帰りゆくべき故郷。『砕け波』(1985)『愛の瞬間』(2004)以来 Odysseus の Penelopea 回帰という Martin Walser の愛の通奏低音がここでも鳴っている。

Silvi は Mallorca 島の国際精神分析学会で、妻に欺かれた Kirk Austin 博士と出会い、New Hampshire の Hanover でその残された3人の子の新しい母となることを決意。

2.3 Ewald から Percy への遺書ともいうべき手紙

列車は先へ進んでいくが、私は次の駅でそう望まなくても降りなければならない。愛する Percy, もしよいと思うなら、君が読んだもの(第II章全体が Ewald Kainz の手記)を Elsa の所にもっていてもよい。Elsa はすでにすべて知っている。いつも。あのカウチの上でなるようにならざるをえなかったことはよいことではなかった。オートバイグループの若者たちの所へも行ってほしい。そこへ行くことで何が起るのか私にはわからない。私の遺灰。もし望むなら Elsa ないし君の母上の所に持って行ってほしい。あるいはラインの流れに撒いてほしい。Elsa から贈られた金柁の紅玉隋(Karneol)は君の望むところに保管しておいてほしい。(275)

これは明示されていないが、Kainz が自らこの世を去ろうとする遺書である。

3 Augustin Feinlein と Eva Maria, Dr. Bruderhofer

第3章は、Percy のために書いた Augustin Feinlein の自己物語。Eva Maria をめぐる老若の愛。旧新、信と知、自然治癒と科学療法、真と偽というテーマの織りなす『わが彼岸』は前号参照。州立 Scherblingen 精神病院長 A. Feinlein は、空洞化した儀式行列から心からの信仰を取り戻すべく、聖体顕示台(Monstranz)を院長室にもってきたことで、特別室に蟄居させられている。第3章『わが彼岸』は前回詳述したので、ここではくり返さない。

4.1 Modest Müller-Sossima

第4章と5章は、第1章と同じスタイルにもどる。

Rheinau 島は、スイスとドイツの国境をなすライン河が、Boden 湖から出て Schaffhausen のライン滝から下り、急激に湾曲する中州の島である。そこに844年から1863年まで修道院、1867年か

ら2000年まで病院があった。600の部屋，200人の患者。そこに2007年から，ライナウ・ソフィア・アカデミー，未完成者学院を創設する。何らかの理由で音楽を学べなかった人が，何の妨げもなく音楽を学べる学院。その院長に Augustin Feinlein を招聘するべく，蟄居中の Scherblingen 特別病室から Rheinau 島に Massimo の運転する車で Percy などといっしょに連れて来るよう懇請したのは，前スイス連邦議会自由民主党議員 Modest Müller-Sossima である。彼が乗っていたヘリコプターが Graubünden の山中で墜落したとき Augustin が助けて以来，二人は無二の親友となった。

Dr. Bruderhofer は，聖体顕示台の件のみならず，司法独房での患者 (Ewald Kainz) の自殺は院長独自のセラピー，健康自然祈祷の祭壇に捧げられた犠牲であると，Augustin Feinlein の責任を追究していた。

4.2 Percy の養父願望，Modest Müller-Sossima の死

Percy が養父になってほしいと思ったのは，雪のなかから救い出してくれた Studer 主任司祭。看護師としての現在の自分を育ててくれた Feinlein 教授。そして未完成者学院長 Müller-Sossima の3名である。完成とは美しい重圧である。未完成者学院は，この重圧をなくし，障害を取り除き，成ろうとするものを守り，成るように任せる。未完成者が自然に自由に成るように任せる教育が大切。また学院では，言う必要のあることは紙から読み上げられてはいけぬ。経験は必要の母であって，経験により生み出された必要なことだけを言わなければならない，と Modest は言う。現在の自分からおのずと湧き出る言葉で話すべきことを Percy は学んだ。「何を話すかを，思い煩うなかれ。そこで語るのはあなたではなく，聖霊であるからだ」というマルコ伝 (13, 11) の一節が背後にある。

ところが Modest Müller-Sossima は，その母 Sofja Andrejewna が Mussorgski のピアノ演奏中に急死する。母 Fini は自分自身に対するゆるぎない信頼を備えさせてくれた。しかし Modest が死んだいま，ほくは無だ。彼がいなければ，すべてはないのと同じだ。ほくのなかでこのように生きているのに，その人が死ぬことがありうるとは！ だんだん強くなる未来の開示，世界の可能性への展望があったのに，いまは？ 未完成，無。

Ewald Kainz は枠外だった。なぜおまえはおれが首をくくるのを見過ごしたのか？ という非難が聞こえる。Ewald が自殺するのを防ぎえなかった。悲しい。だがそれは憤怒，叫びだった。自殺しないよう，傍にいなければならなかったのに。自分は Ewald にとり何の意味もなかった。それは耐えがたい苦痛だ。

4.3 Augustin Feinlein の死，Massimo Attanasio

Massimo Attanasio は，シチリア出身で，学院の守衛，修繕，庭師，運転など一切を切り盛りしている学院管理人である。その恋人 Kirki は学院の家政婦。二人は泣き叫んでいた。Massimo は，医者 の 扮 装 を した Augustin の 横 顔 を 板 で 切 り ぬ き，銀色の塗装をして作った立像を，ライン河 Diessenhofen 木橋の端に立てた。銀色のヴァイオリンケースも足元に置かれていたので，喜捨をする通行人もいた。向い岸の丘には Eva Maria の居住する Wigolfing の城館が見渡せる地点である。毎土曜 Massimo の運転する車で Augustin はそこを訪れ，似像の後ろに立った。ある日サッカー

に敗れた酔漢たちが、それを人形と思い突き倒すと、Feinlein は仰向けに頭を打って不慮の死を遂げる。

それを聞きつけた人たちが集まるなかに、Artemis のような Eva Maria の姿があるのを見つけ、その眼差しに冷淡なものを Percy は感じとる。Weimer 神父が埋葬弔辞を述べる。Augustin Feinlein は、薄暗い教会の椅子にひとり、己を知り、充足している人がもつ靈気を発して座っていた。その人となり、その影響力は、今でもここでもなお生き続けている。彼は子供らしい魂を保ち続けていた。自分の子供らしい魂が、自らを救ったのだ。

Percy は、Augustin のいくつかの文を書き留める。「信仰は言葉のない歌だ。」「憧れのない者は、生命がない。」「もしそれ以上深い底が存在しないならば、最も深い底にあることはよいことだろう。」「病院は治癒のない破壊だ。」etc.

4.4 Elsa Frommknecht

二人の不慮の死により学院企画が挫折しないよう、Percy はその後任に Elsa Frommknecht が就くよう要請の手紙を出す。返事：未完成学院が未完成に挫折するから引き受けるのではない。音楽をしようと欲する人たちは、プロでなくても、音楽を必要とする。音楽への愛のためにプロより苦しまざるをえないことも多い。なぜ私たちは音楽を必要とするのか？ なぜなら音楽は、ある（存在）ことより、多くありたいと望む（意志、願望）からです。

Müller-Sossima の母は Percy に感謝の手紙を書く。Modest があなたのことを、その人がそばにいと自然に現在の自分より軽く感じられる天使のようだと話していたのが、いまわかったわ。Elsa も彼女のありかたで天使だわ。彼女と音楽をすると、翼が生えてくるかもしれない。

Elsa は音楽を必要とする者を助ける。音楽のなかで、音楽を通して、ある人がそうでありたいと望んだ者になるように、だれでも助ける。Schiller の詩による Richard Strauss の『夕べ (Der Abend)』企画。ただ歌うだけ。楽器なしに。ただ声、合唱、魂そのものがあるだけ。それには自己をゆだねた男女を必要とする。それを聞く者は帰れない。とどまる。願望成就。そのために Elsa はこの島にやってくる。Sandra を連れて。

4.5 The Jollynecks, Austrian Action

Percy は Massimo の運転する車で German Insiders のアジトに Ewald Kainz (Marlon) の遺灰壺をもって行くと、片腕、禿周辺のブロンドの髪の毛を肩に垂らした Katze が出迎える。心温まる自由コーラスだったドイツ・インサイダースは、Marlon が腹を決めた（自殺？）と Giacomo が告げたとき解体した。いまは世界17ヶ国に支部をもち、オーストリアでは21もある Austrian Action, The Jollynecks のドイツ支部7となった。The Jollynecks の三つの掟は、1) 富者にも貧者にも反対、2) 自己自身以外すべてのものに反対、3) 自分自身でなく他人を憎め、である。Giacomo が Wien に去って、いまリーダーの Katze は言う。2千年にわたり愛が説かれたが、世界は何も変わっていない。その間人間はただ自分自身だけに関心がある存在として生きてきた。他人に愛をもらえば世界がよくなるというのは、偽善で嘘だ。神は真だが、人間はだれでも嘘つきだとわかるべきだ、

とあの大口たたきの Pauls は言ったが、われわれは言う、人間は結局自己自身以外に関心をもつことはない、と。「私は望むことをしないで、憎むことをする」と言ったパウロは正道にいた。しかしキリスト物語が彼をねじ曲げたのだ。言葉のアクロバットはもうよそう。恩寵が与えられれば、人間は現在の存在よりよくなる。恩寵！ これはペテン中のペテンだ。掟がないかぎり、罪もないということはわかる。そこで掟ができ、君は罪人になる。そうなれば君は恩寵を必要とする。我は私の望む者に憐れみを贈る、と主が私に言われたと告げているモーゼを私はほめる。Percy、君はすばらしい。しかし君は間違った学校に送られた。君がいま両極の一方にされているように、君は不幸に終わるだろう。よくても十字架で。現世における人間を御しやすくするために、よりよき彼岸を約束することは、犯罪だ。超越こそ原罪だ。愛への強制が人間を悪くしてきたのだ。憎悪への自由が人間をよくする。これはファッショ的だが、筋が通ってはいなくもない、奴は Mussolini だと Massimo は揶揄する。

人生は過酷だ、ということは誘惑的に聞こえる。というのも人間は助けられる可能性がある、ということがおのずから考えられるからだ。私は、世界が訂正されねばならない間違いであるかのように行うプログラムは欲しない。私はあるがままを尊重してきた。私は何にも反対しない。だから君たちにも反対しない、と Percy は言った。

帰る前、Katze の部下二人がオートバイを走行、後乗者が人形のうなじに発砲、首を落とす遊びを披露した。Mussolini が灰青色の鋼鉄のような目を光らせたのを見て、やつはあなたに止めを刺すよと、Massimo は Percy に忠告した。

4.6 Sandra と Percy

Elsa が連れて来た次女 Sandra の魅力は、その髪、目、口にあった。その目はつねに Percy を見つめ燃えていた。落ち着きのなさ、不安があった。それは何か？ 怒り、悲しみ、何らかの叫び、何かに向けられたりそむいたりしているのではない。ひょっとするとただ静かに落ち着かせてという叫びなのかもしれない。朝4時、6回も屑籠に入れた Percy の Sandra への手紙。君にすべて言おうとしているから、何も書けない。ぼくは君にぼくを委ねたい。君は君の願うことをぼくとならできらうという感情がある。ぼくたちはお互いに願うことをいっしょにすることができるだろう。君はぼくにないものをもっている。もし君といっしょなら、ぼくはすぐにもう貧しくはないだろう。君なしにはぼくは事実貧しい。母 Fini はもうぼくたちに子供がいると思っている。君が息を吐く。君の吐いた息を、ぼくが呼吸するのだ。

Sandra の返事：あなたに書かざるをえないことを書くことほど難しいことはない。書きたくはなかった。一言で言えば、私は見捨てられ孤独になることはできない。それが私の心に消しがたい母 Elsa の苦悩です。2度も。私には1度でも多すぎる。

Percy は思う。おまえを Sandra に向かわせるすべてを避けねばならないのなら、おまえの人生そのものを避けているのだ。希望の連禱をよして、Augustin のように、自分自身もう聞こえないような叫びを発することを学べ！

Sandra の手紙：この手紙を書かねばならないということはわかっている、書いた手紙によって

私はより落ち着けなくなります。あなたにもうお目にかからないということはたしかです。しかしもう会ってはいけないという私を助けるのは、遠く離れてあなたに書き、感情を生きるに任せることです。怖いほどすでにいかにあなたの奴隷になっているかは気がついています。そこにとどまっていれば何が起こったろうか想像できません。よくある別離への旅でしょう。手紙。手紙こそある人から他の人へ飛んで行き、その人に美しい歌を歌う色鮮やかな鳥ではないでしょうか？ 毎晩でも手紙を書きたい。でもそうはならないでしょう。傷つけあう境界のかなたに住んで、そこからウインクしたい。手紙で会うかぎり、あなたを十分得ることはできない。そのような無力状態があります。より強くなってください。そうすれば私も強くなります。

4.7 母 Fini 訪問, Percy の二つのスピーチ

Stuttgart の Hildegard 老人ホームに住む母 Fini のところへ Percy は Ewald の骨壺をもって行く。いろいろ調査したら私たちの先祖は貴族。つまりあなたは Anton Parcival von Schlugen。これは存在のひとつの拡大。私は年老いて、健康、保守的、すなわち幸福になったわ。世界は美しいひとつの関連。生涯欠けていたものをいまもてるのは幸福だわ。男なしの出産は、医者なら病気というかもしれないが、あなたのおかげで私は大胆になったの。私はタバコを日に60本吸う。灰皿はどっちみち必要なの。遺灰壺は箆筒の上へ置いて！

Studer 司祭付家政（料理）婦 Hedwig は癌で Ulm の病院にいるが、Percy により生きていることをみなわからない。理解しようとするのはどのみち無意味よ。理解できることはない。理由なく生きること。生きるために。母と Hedwig の言葉は同じだ。Maria 無原罪の御宿りの日 Hedwig は逝く。

Merklingen の Studer 主任司祭館大広間で Percy がスピーチをする。孤独でない者がいようか？ 孤独者も共通の世界をもつ。われわれのだれにでもある洞窟、われわれのものでもある暗闇が支配する洞窟、これを神と名づけることは許されるだろう。たとえこの洞窟が空であるとしても。この空虚さに疎遠な人は、私にも疎遠だ。この空虚を認めよう。空虚が神の住まい。神はこの世のあらゆる欠陥に対する埋め草であるほど気がよくなる。神がみなさんのことを気にかけないなら、みなさんも神のことを気にかける必要はない。そうするとはじめて神はみなさんのことをどのように気にかけるのかを感じるだろう。私のプロンプター Emanuel Swedenborg の夢の日記： すべては高みへ飛び上がり、その最高の中心点へ流れ入ろうとしていた。最高の中心こそ、愛の場所である。すべては愛のまわりを回っている。愛は何の理由も必要としない。愛される前に愛する。愛されたあとで愛する。愛がなくなると、憎しみがとって替わる。他人を非難する者には愛がない。憎しみをもてば日は沈み、愛をもてば日は昇る。憎しみに満ちたこの世に光がさす美しい情景が私には必要です。天使 Gabriel が Maria のところに来て告げます、あなたは神の息子のけがれなき母となります、と。これ以上美しいメッセージはありません。聖霊に選ばれた代理母 Maria。Maria は拒まない。言われたとおりにする。これはかつて物語られたストーリーのなかで最もすばらしい物語です。人間がもった最も美しい着想です。私の場合ある物語で決定的なのはつねにその美の位階です。まさにそのようなある日 Frau Hedwig が来て言いました。生きるために私は戻ってきたのだと。高

跳びのような文章です。あるイメージが美しければ美しいほど、それだけ私は歓迎します。あなたの窮乏 (Mangel) からあなたを救済する者こそ、神と名づけることが許されるでしょう。

12月23日 Percy は Mühlheim の主任司祭 Anton の案内で巡礼地 Welschenberg 山 (792m) の廃墟 Maria Hilf 教会へ行く。30年戦争時1661年巡礼地として聖別、1756年に建立された教会の一部がいまも廃墟として残る。1811年廃止令により閉鎖されたが、礼拝堂と塔をその後再建。Fini の父は娘を連れて3度巡礼し、これを「未来の廃墟」だと言った。廃墟に雪が降り始めるなかでの Percy のスピーチ：私をひとりにしないでください！ 私はひとりに置き去りにされないことを望む者のひとりです。そこを支配するのは窮乏 (Mangel) です。おお Maria, 助けてください。ここの礼拝堂の壁には、体験した救いに対する感謝の絵馬があります。昔のもので。私をひとりにしないでください。それを私は神よりむしろ Maria に言います。神に住所はありません。Maria には顔があります。赤いのだ仏のヨーロッパ駒鳥 (キリストの茨の冠をはずそうとしてのどが赤くなったという伝説がある) が私の肩に止まって「心配しないでいいよ」とささやく夢を見ました。雪は世界を美しくする。われわれが何かを美しいと思うことは、われわれの最も重要な天分です。憎しみはすべてを醜いと思う。愛はすべてを美しいと思う。そして白衣の Anton 司祭がクリスマス前夜の礼拝を捧げる。次に Percy は詩篇を頌歌する。

「樅の樹の、沈黙のありように、耳を傾けなさい
 すべてを、私がそうは思わなかったように、言いなさい
 それが私の芸術でしょう、／言葉による共感はあるでしょう。」
 「あなたがたが冷たさをつくるとすれば、／私は暖かさをつくる。」
 「だれでもひとつの叫び、しかしだれの耳にも届かない。
 すべての人から私は逃れる、しかし自分からは逃れられない。」
 「けっして我に問うなかれ、／知ろうと配慮もするなかれ、
 いずこから旅して我は来しか、わが名も人となりも問うなかれ！」
 Anton 司祭： Kyrie eleison (主よ、憐れみたまえ)。(488～492)

5.1 最後の情報、謎めいた犯罪

Konstanz 発ニュースによると、Anton Percy Schlugen は12月24日朝9時 Mühlheim 出発 Neuhausen を経て森を13km歩き約束の Waldhof で正午に Massimo と会う予定だったが現れなかった。Schindelwald でオートバイ・クラブ The Jollynecks ドイツ支部リーダー Hans Peter Ullmann こと Katze によって射殺された。生き残ったバイク運転手の証言によれば、後席の Katze がストックをもって歩いていた Percy のうなじを打ち抜くと、前輪に両手を広げて巻き込まれ、バイクはもんどりうち、Katze も空中に投げ飛ばされ、うなじを骨折して、二人とも雪に顔を突っ込み死亡。通過発砲は擬似遊戯で、3日後撃たれた者は復活する、その有様を Fred が撮影テレビ番組にする予定だった。クラブのスポークスマンは、この犯罪の動機は失恋すなわち絶望であると語っている。

5.2 Merklingen での埋葬式での弔辞

Scherblingen の Weimer 主任司祭：つらい報せに母 Fini の応答は「これは Percy に典型的なことなの。心配はいらない。あの子は再来する。いつも消え失せたと思うと、突然現れるの」でした。Studer 主任司祭：「Percy の出生にまとわる気品あると同時に配慮に満ちた謎、その恐ろしい死、母親の何によっても動じない信念、それはこの喪の悲しみに明るい音調を与えます。私にとって Percy はつねに日の出、曙光、清らかな光の約束でした。Percy が存在しえたということは奇跡のように思っただけでしょう。だれに対してかはわかりませんが、この奇跡にいつも感謝しています。」

その午後 Rheinau 島の聖 Maria 修道院教会における未完成者学院の追悼式で、Elsa Frommknecht 指揮する Schiller 詩 Richard Strauss 作曲 4 部合唱『夕べ』が銀色の装いの男女群で歌われた。Elsa は毎年この日に合唱し、いつか聴衆がいなくなっても歌い続けたいと思っている。

あなたに髪を刈ってもらうのはなんと気持ちのよいことか、と言ってくれた人は Percy のほかにいなかった、と Massimo は言う。シチリアから移住し23年間未完成者学院で働く彼にとって、散髪の日こそ祝日だった。初春の庭で散髪のある日「きょうは鳥たちができる以上の声をあげて鳴いている。」Orpheus のようだ。死の2日前 Percy は「マシモ、ぼくがもう1度父を選べるなら、あなたがその番です」「あなたはまだ長く生きるということを、ぼくに約束しなければならない」「Ewald が遺したこの小包は Sandra に渡してください」「世界はできそこないです、だからこそぼくはこの世がこよなく好きなのです」と Massimo に言い遺し、「最後の願い」と書かれた封筒を手渡した。

ああ、大気や湖沼を通して身を高め、
ときおりひとしづくの不死をすすめるのを／望まない者がいようか。
もし赤い色の日があるなら、／それは私の日だ。
私が現われるやいなや、／草木はコーラスで歌う、
私が快い友好 (Freundlichkeit) の主であるゆえに。
……私の住むところには、自由がある。私は星なのです。(504~5)

結び

(1)『母の息子』という本小説の題名からして、現代の読者はまず、「シングルマザーの子」を連想するだろう。源泉を遡ればもちろんマリア=キリストという原型に辿り着く。たしかに物語の筋書きはキリスト物語に似ていなくもないが、しかしキリスト教の礎石たる、処女懐胎、磔刑と復活という二要素が、本小説の基本テーマとはいえない。むしろ、現代の人間関係、幾組かの男女関係、その愛のありようが織り成す人間模様そのものが、きわめておもしろい。おもしろいのはそこに、愛と信、信と知、老若、生死、美、希望など、人間の生の根源的テーマが織り込まれているからであろう。また会話や語りのなかにちりばめられた短い美しいアフォリズムそのものもおもしろい。生の根源からの知恵の結晶だからだ。

生地 Lübeck はマリア教会での Thomas Mann 死後50年記念式典 (2005. 8. 15) で、Horst Köhler 大統領臨席の下、85歳の Marcel Reich-Ranicki は『ドイツの不幸におけるドイツの幸福』と

題する記念講演を行った。戦後ドイツ文学を代表する Kafka などに比べ、Thomas Mann は昨日の小説家と言われたが、作品の売れ行きや研究対象として後者はいまなお群を抜く。たとえば2000~2005年の購入数は140万部、大学などでの関心度は後者100に対して前者40ほどである。ではこの死に絶えぬ人気の秘密は何だろうか？ それは Th. Mann の小説がおもしろい、楽しめる(unterhaltsam, vergnüglich, amüsant, Spaß)からであり、それが人を惹きつけるのではないだろうか。美食(kulinarisch)、ないし、少し悪ふざけ(Allotria)とさえ言う。たとえば『選ばれし人』(1951, Mann 75歳)、『詐欺師 Felix Krull の告白』(1954, 79歳)。「芸術はきわめて真剣な遊び」という Th. Mann の小説には、たとえばヨゼフ4部作『エジプトのヨゼフ』(1936, 66歳)の Potiphar の妻 Mut-em-Enet の恋物語に象徴されるように、愛と性のモチーフが核心的役割を演じている。これは Martin Walser にもあてはまるのではないだろうか。80歳前後の二人の老作家の、老いるほどに明るい音調の、おもしろい言語物語世界を、まず虚心に楽しむべきではなからうか。

(2) しかし、おもしろいだけでは、いわゆる娯楽(Entertainment)と変わらない。時空を超えて人の心に迫るのは、そこに人間の生の根源に迫るものがあるからだろう。Thomas Mann は Nazi 時代スイス、フランス、アメリカなどの亡命先に原稿を持ち歩き、『旧約聖書』の世界、とくに Jakob から Joseph に至る『創世記』50章までのなかに人間の生の原型を追い、16年かけて『Joseph とその兄弟たち』四部作(Tetralogie)を書き上げた。Martin Walser の80歳代の「憧憬の3部作」(Trilogie)も同様である。義認論、私の彼岸幻想、母の息子小説は、次作『第13章』という書簡小説に連なる。現世から彼岸への、現象からアイデアへの、個別から普遍への、内在から超越への希求や憧憬こそ、人間存在を他の被造物から差異化し人間たらしめる。

義認論の核心をなす Karl Barth の『ローマ書講解第2版』(1919年)の人間と神の恩寵をめぐる関係は、Franz Kafka の『審判』や『城』の創作時期と重なり、時代精神の共鳴ともいえる。人類がはじめて遭遇した世界大戦の悲惨な現実を前に、ひとは神に救いを求めてもむなしく、義はいずこにありやと問う。思いもかけぬ訴訟に巻き込まれたKは、自己の義認を求めてもむなしく、犬のように殺される。われわれの現代も変わりはない。恩寵は人間には不可知、不可視の神の御業といわれる。主人公 Percy にキリストの影を否定することはできない。翼のない天使 Percy の生と、その不条理な死を、従容として受け容れる母 Fini=Maria という母子像に、曙光と奇蹟を見る Studer 主任司祭の甲辞に、救いが仄見える。急所の傷に苦しむ Amfortas 王を救えるのは、母 Herzelojede に育てられ純粋な愚者たる Parzival の問いだけとする聖杯物語の下地も見え隠れする。Ewald Kainz や Augstin Feinlein の魂を救えるのは、快い友好の主 Percy ただひとりである。Parzival の息子、白鳥の聖杯騎士 Loherangrin と同じように、Percy に、あなたはだれ、どこから来て、どこへ行くの、と問うてはならないのかもしれない。

窮乏・欠如が、宗教や芸術を生む。窮乏が創作の動力という Martin Walser は、欠如態が希望の原理とする Ernst Bloch と共振する。愛も信仰も、信が不信を、不信が信を生むという、間断なき否定弁証法運動そのもののなかにあるという Martin Walser の通奏低音は、Th. W. Adorno の否定弁証法や同一性批判にも通ずる。美的現象としての生義認、新しい未知の神 Dionysos を歌う

Friedrich Nietzsche と Karl Barth を、否定弁証法運動において結びつける Martin Walser の義認論はおもしろい。Karl Barth の弁証法神学が死せる机上の空論ではなく、生身の愛の葛藤関係から生まれたものであることは、2008年に上梓された Charlotte von Kirschbaum との往復書簡^②からも伺える。欠乏は充実を、不信は信を、絶望は希望を、不在は存在を、悲惨は美を、憧憬する。「憧憬三部作」の最後は相聞と苦悩の往復書簡小説となる。

(すぎき・けいぞう つくば国際大学非常勤講師)

Text:

Martin Walser (©2011): *Muttersohn*, Roman. Rowohlt Taschenbuchverlag, Reinbek bei Hamburg, 2013.3

参考文献：

- 1) Böhme, Jakob (1957): *Mysterium Pansophicum*. In: *Sämtliche Schriften*. Bd. IV. Faksimile-Neudruck der Ausgabe von 1730 in elf Bänden, hrsg. von Will-Erich Feuckart. FR. Frommanns Verlag Stuttgart / Cf. 『ベーム小論集』園田他訳 (1994), ドイツ神秘主義叢書 9, 創文社
- 2) Seuse, Heinrich (1924): *Deutsche Schriften*, ausgewählt und übertragen von Anton Gabele. Insel Verlag, Leipzig / Cf. ハインリヒ・ゾイゼ (1961) 『ゾイゼの生涯』神谷完訳, ドイツ神秘主義叢書 5, 創文社
- 3) Swedenborg, Emanuel (1978): *Traumtagebuch 1743~1744*, übersetzt von Hofrat Felix Prochaska. Swedenborg Verlag Zürich
- 4) Reich-Ranicki, Marcel (2005): *Deutschlands Glück in Deutschlands Unglück. Was Thomas Mann mir bedeutet: Die Lübecker Festrede zum Gedenken an den Schriftsteller*. In: *Frankfurter Allgemeine Zeitung*, Feuilleton. 2005. 8. 15, Nr. 188, S. 29/31

注：

- (1) Martin Walser (1981): *Selbstbewußtsein und Ironie. Frankfurter Vorlesung* Suhrkamp, Frankfurt/M. S. 140f. / マルティン・ヴァルザー (1997) 『自己意識とイロニー』, 洲崎恵三訳 法政大学出版局, 136ページ以下参照。Novalis の “*Monolog*” をめぐり, 自立世界で自己自身と遊ぶ数式と言語の自己運動への考察がある。
- (2) *Karl Barth – Charlotte von Kirschbaum. Briefwechsel. Bd.1. 1925–1935*. (2008). Hrsg. von Rolf-Joachim Erler. Theologischer Verlag, Zürich.

Martin Walser 《*Muttersohn*》

—— Trilogie der Sehnsucht (2) ——

Keizo SUZAKI

Resümee (Deutsch): Martin Walsers Roman „*Muttersohn*“ (2011, 84 Jahre alt) könnte eine Art moderner Imitatio Christi genannt werden. Aber sein Hauptthemen bestehen nicht in den zwei wichtigsten Elementen des Christentums: Jungfrauengeburt und Auferstehung. Interessant sind moderne Liebesgeschichten zu lesen, die mit einigen Paaren dort erzählt werden. Interessant, weil sie die Kernprobleme unsres Menschenlebens behandeln, so wie Lieben und Glauben, Leben und Tod, Ich und Natur, Altern, Hoffnung, das Schöne, Sprache usw. Interessant auch, verschiedene schöne kurze Aphorismen zu lesen, die in Gesprächen und Erzählen blitzend eingelegt sind. Interessant, weil sie die aus den Lebensurquellen hervorspringenden Weisheiten sind. Warum werden Thomas Manns Dichtungen heutzutage auch immer noch geliebt gelesen, so sagte Marcel Reich-Ranicki in der Festrede zum 50sten Todestag in Lübeck (2005), weil Th. Manns Werke unterhaltsam, vergnüglich, amüsan zu lesen wären. Dürfte das nicht gleich Martin Walsers alten Werken gelten, deren Ton je älter desto heller geworden sind.

Schlüsselwörter: Engel ohne Flügel, Muttersohn, Selbstverlassenheit, Stimme der Natur, Morgenröte

Abstract (Englisch): Martin Walsers Roman „*Mothersson*“ (2011, Age 84) could be regarded as a sort of Imitatio Christi. But the main themes consist not in the two most important elements of the christendom ; immaculate Conception and resurrection. Interesting is to read the several modern love-stories in this roman. Interesting, because the central problems of our life are described there, for example love and believe, living and death, I and nature, aging, hope, beauty, language and so on. Interesting is also to read various wise aphorisms which are told in the conversations and narrations. Interesting, because they are the crystallization of wisdoms on human life. Why are Thomas Mann still read and loved, so said Marcel Reich-Ranicki in the speech on the 50th anniversary of his death (2005), because his works are to read so entertaining, pleasant and amusing. Could not it apply to Martin Walsers Romans that are getting the lighter, the older he becomes.

Keywords: Engel without wings, Motherssson, selflessness, the voice of the nature, sunrise